

第 21 回国際疫学会総会 秋篠宮妃殿下 お言葉（和文仮訳）

平成 29 年 8 月 19 日

本日、「国際疫学会第 21 回総会」の開会式で、世界の各地からお集まりの皆さんにお会いできましたことを大変うれしく思います。海外から参加された皆様を歓迎いたします。日本での滞在が、思い出深いものとなりますことを願っております。

まず、長年にわたり、疫学に取り組んでこられました皆さまのご努力に対し、深く敬意を表します。

本大会のテーマは、「変化する世界での地球的・地域的・局所的健康と疫学」です。世界の多くの地域の人々が、社会・経済的な変化や環境的な変化を経験しており、こうした変化は、人々の健康に様々なレベルで影響を与えています。疫学は、人々の健康状態とそれに関連する要因の分布を研究しており、変化する世界の中で、その役割は大きくなっています。

私は、結核予防活動や妊産婦と母子の継続的ケアに取り組み、私たちの健康にかかわる様々な問題について考えてまいりました。例えば、多数の、特に社会経済的な困難を抱えた人々が、結核、マラリア、HIV/AIDSなど、予防や治療ができる感染症に苦しんでいます。母子保健についても、家族を取り巻く社会状況や環境、虐待など家庭の問題が、子どもの心身の健康に影響を及ぼすことが指摘されています。

日本の結核の経験は、皆さんにとって興味深い事例かもしれません。日本は、20世紀に結核を急激に減らすことに成功しました。しかし、現在の結核患者の中には、結核の治療がより困難な高齢者の割合が相当あります。また、若い世代の結核患者には、外国生まれが増加しています。

調査の対象となる人々とその家族の気持ちを尊重した倫理的な研究によって蓄積された、疫学の信頼性の高い科学的な成果を十分勘案して、必要で適切な対策を進めていくことが、たいへん重要であると思います。また、疫学者の大変な信頼できる仕事の成果についての人々の理解が広まることにより、私たちが、健康の専門家と協力し、誤った情報を回避して、自分たちの健康をよりよく守ることができるようになることを願っています。

この度の会議では、シンポジウム、講演、発表など、興味深いプログラムが用意されていると伺っています。この会議の準備のために尽力された方々に、心から御礼申し上げます。この大会が、疫学の研究や教育、その他の領域に携わる参加者の相互の活発な交流を促し、皆さんにとって、実り多き機会となりますことを願っております。

皆さまのご健康とご活躍をお祈りするとともに、皆さまの疫学のお仕事が、私たちと将来の世代の皆の健康のために貴重な貢献をされることを願って、開会式に寄せる言葉といたします。